

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1

愛知県東大手庁舎 1階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月～金 10～17時



さつまいも植えつけ祭 in 飛島村

5月19日にサツマイモ植え付け体験に、娘と二人で参加させていただきました。

今春飛島村より励ましのお手紙とお米をいただき、感謝の思いと、子どもと農業体験を経験してみたいなあ、という思いで当日の参加を楽しみにしていました。

伊藤さん宅の畑で、サツマイモの苗の植え付けの仕方を教えていただくと、家族ごとに苗の植え付けとジョーロでの水やりの作業をしました。子どもたちもお水のたくさん入った重いジョーロを一生懸命持って、自分たちで植えた苗に「さつまいも出来るのいつ？ 早く食べたいな！」と言いながら、何度も水やりを頑張っていました。

作業が終わると近くの土手に子どもたちが集まり、カエルやヤゴなど生き物を見つけたりしながら、子どもたちもすぐお友達になって一緒に遊んだり、大人も青空と畑や田んぼの風景にも癒され、ゆったりとした気持ちで自然と触れ合うことができました。

お昼は、飛島村の方々が朝早くから、100人分のおにぎりや豚汁など準備してくださって、



青空ランチを美味しくいただきました。

地元の方々や市議会議員の方々が、被災者の思いを聞いていただいたり、村長夫妻も用事があるなか、その用事を終えるや否や畑に駆けつけてくださり、私達ひとりひとりに声をかけていただきました。震災後、心のどこかで子どもの健康不安を絶えず不安に思いながら、何となく地に足のつかない気持ちで過ごしていました。そんななかで、飛島村の方々の気さくに歓迎してくださる、その温かさがとても嬉しかったです。

また同じ被災者の方でも、子どもたちの健康を守るために活動されてる方のお話が聞けたりして、前向きな気持ちになりました。

お土産にもお米やたくさんのお野菜をいただき、その日の夜はお友達とサラダを手作りして美味しくいただきました。

8月25日は草取り 10月6日は収穫があります。また多くの方が参加され、温かい触れ合いを体験したり、同じように不安を抱えている気持ちを皆さんと共有できたらいいと思います。

本当に楽しい一日をありがとうございました。

(岸田 智子 名古屋市昭和区 在住)

「第9回お茶っこサロンなごや」に参加して

昨年の夏から実施されている「お茶っこサロンなごや」、今回はいつもお世話になっている「東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや」のある、北区の名古屋市社会福祉協議会の一室で、4月20日（土）に行われました。9回目ということもあり、顔なじみの方も多かったのですが、まだまだ復興の進まない場所や、原発の多大な影響のある土地から転居されてきたばかりの方もいて、様々な方々が参加していました。

今回は観光施設見学やイベントは特になかったのですが、その分お喋りやお茶の時間がゆっくりととれて、悩み事の分かち合いや普段の生活の情報交換もたくさんできて、楽しい時間を過ごすことができました。地元の由緒ある商店街の、美味しいお菓子もいただきました。（今回はかしわ餅でした）

避難者の私たちにとって、被災経験者同士でいろいろな悩みを話したり、故郷の思い出を話したり、名古屋での生活について話すという時間は、精神的にも、自立した生活に向けても、とても大切だと思います。まだまだ私たちの生活は不自由で厳しいものがありますが、この日は明日への希望と元気をもらうことができました。また、参加している小さなお子さん同士もだんだんと仲良くなってきていて、大人も子どもも名古屋で新しい友情が生まれるのはいいなと思いました。

そしてこの日は、「これからたくさんの人に参加してもらうには、どんな交流会がいいか」ということについての聞き取りもされ、さらには東日本の地震はもちろん、阪神の地震の頃か

ら全国の被災地支援で活躍する「特定非営利活動法人 レスキューストックヤード」の方から、私たちが知らない土地で引きこもりがちにならないように、簡単なモノづくりや販売の場を作ってみては？という提案もありました。つつい家にこもってしまいそうな人にとって、とてもいい提案だと思いました。みんなでおしゃべりしながら何か作ったり、外に出ることは、体にも心にもいいと思います。まだまだ検討段階ですが、ひょっとしたら名古屋へ避難されてきた方々が作る、大ヒット商品が生まれるかもしれないと感じる、夢のある提案でした。

6月は中川区の会場できしめん作りが行われる予定です。新たな出会い、そして再び自立への希望と元気が持てる日になると思います。まだ参加されたことのない方も、ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか？

最近はお茶っこサロンなごやの前後に、避難者の方が独自に主催する、関東1都6県から転居してきた方々での「関東茶話会」もやっています。関東からの避難者もけっこう多く名古屋にいて、みなさんそれぞれ悩みもあるようです。関東から来られた方もぜひ、同郷の方たちとのお喋りをしてみてはいかがでしょうか？

最後に、ボランティアの方々、ボランティアセンター職員の方々には、毎回私たちのために準備をしていただいて、とても感謝しています。厳しい生活の中、自立に向けて頑張る私たちにとって、お茶っこサロンなごやは大切なイベントになっています。いつもありがとうございます。

（ペンネーム 佐藤 哲也）



「第10回 お茶っこサロンなごや」に参加して

5月12日の鶴舞公園でのお茶会に子どもと二人で参加しました。

当日はとてもお天気が良く、すがすがしいピクニック日和でした。たくさんの大学生のボランティアのお兄さんお姉さんが、子どもたちの相手をして下さりました。公園内のお散歩のときにも、遊んでいただき、子どもは大喜びでした。母子避難ですので、日頃は父親の居ない生活をしておりますため、私以外の大人の方に遊んでいただけて、とても感謝しております。将来子どもにもボランティアのお兄さんお姉さんのように優しい人に成長してもらいたいと思いました。

園内の散策では、昭和区のボランティアの方々に鶴舞公園の歴史、珍しいお花や植物について説明いただき、知らないことばかりでとても興味深かったです。ありがとうございました。

私は前回の山崎川でのお茶会に引き続き、2回目の参加となります。昨年の1月頃に避難者登録をして以来、初めてお茶会に参加するまでに1年ちょっとの月日が経ってしまいました。避難してきた当初は子どもの幼稚園探しから始まり、実家に滞在しているとはいえ、周りの環境に慣れる

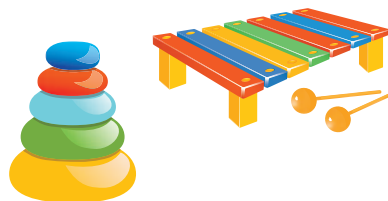
のに精いっぱいでしたが、気づいてみると新聞やテレビからは福島状況や放射能の現状などがあまり報道されなくなってしまい、日々の日常に埋もれてしまっている自分に気づき、周りに気軽に原発事故について話せる人が居ない事にとっても不安になり、参加を決意しました。

参加してみて、たくさんの避難していらっしゃる方々にお会いすることができて、放射能や避難生活に関する不安や情報を教えていただけて、悩んでいるのは私ひとりではないんだ～、と力強い気持ちになりました。インターネットからでも情報は得ることができますが、同じ悩みを持つ皆さんと直接お会いして、生の声を語りあう事ってとても大切なんだなって事が分かりました。

これからもイベントに参加して、まだお会いしていない方々ともたくさん情報を共有していきたいと思っています。

(水谷 峰子 名古屋市名東区 在住)

※次回の「お茶っこサロンなごや」は、7月21日(日)
10時～12時 西区在宅サービスセンター(西区役所庁舎内)にて行われます。



「囲碁クラブ交流会」に参加して

囲碁クラブ交流会に、親子二人で初めて参加してきました。

子どもは学校のイベントで数回やった程度。私はルールも理解しきれていない全くの初心者でしたが、皆さんが温かく迎えて下さって、ホッとしました。皆さん、お上手な方ばかりなのに、丁寧に手ほどきして下さい、子どもも囲碁がさらに好きになったようです。同じ年頃の子どもが来ていたのも嬉しかったようで、二人で楽しそうに囲碁をしたり、遊んでいました。

私はおしゃべりが楽しく、情報もたくさん頂いて、結局囲碁は一度もやりませんでした。とて

もリフレッシュできました。子どもも「また行きたい!」と続けて行きそうなので、オセロさえも下手な私ですが、子どもに教えてもらいながら、少しずつ覚えていこうかな…と思っています。未体験の世界が広がってドキドキワクワクしています。そんな機会を下さった、囲碁クラブの皆さんに感謝しています。ありがとうございます。

囲碁に興味はあるけど…と迷っている方はぜひ参加しませんか?一緒に基本から練習できたら嬉しいです。

(山本 由香 名古屋市中川区 在住)

「子ども被災者支援法を学び声を持ち寄る懇談会」出席と調査票提出

ありがとうございました

懇談会と調査票でのべ120世帯の声を伺いました

懇談会は、5月15～31日、平日と日曜の午前・午後・夜間、17会場で開催しました。171名の参加でした。当事者45名(31世帯/子ども10名)、弁護士27名、支援者40名(家族・当事者団体・市民活動センター・託児・研究者・大学生・院生・医療生協・コープ・NPO)、市及び社協13名(津島・瀬戸・安城・豊川の各市、県社協・津島・小牧の市社協)、支援センター49名。当事者の出身は、岩手県(2)、宮城県(1)、伊達市(2)、楢葉町(1)、富岡町(1)、福島市(4)、郡山市(3)、いわき市(5)、白河市(1)、須賀川市(1)、東京都(3)、千葉県(1)、茨城県(2)、栃木県(1)、埼玉県(2)。事前調査票(6月6日現在110通)は、岩手県(2)、宮城県(8)、南相馬市(7)、双葉郡(7)、伊達市・郡(3)、福島市(7)、郡山市(12)、いわき市(10)、須賀川市(3)、白川市(1)、相馬市(1)、茨城県(2)、東京都(3)、千葉県(3)、埼玉県(3)、栃木県(2)、神奈川県(1)などです。この他いわき市から24通届いています。愛知県の登録世帯(4月30日:544世帯)の内・福島県(318)、関東・北関東(63)でみると、実質約2割の意見をうかがえたことになります。「会議と思ってましたが、一人ひとり話を聴いてるのですね」の感想どおり、じっくり話を伺える懇談会でした。

行政、当事者グループや託児ボランティアまで多くの協力がありました

一宮市からは未登録世帯に郵送。当事者グループ「3.11ing」からは国へ要請結果の紹介。新城市では保養グループ、瀬戸市では民生委員の参加。日本赤十字奉仕団、金城学院大学、南山大学、名古屋大学、愛知大学、社会人の託児ボランティアも話し合いに加わりました。

警戒避難区域、避難勧奨地域、自主避難地域それぞれの状況、仙台や関東から避難され、懇談会が初参加の方の話を事前調査票の記載と重ねて伺いました。「… 苦しむのは私たちばかり。そんなギクシャクした環境で子育てをしても、

心身の健康上よくないとも思い避難したのです。… 震災だけなら復興に向けて前向きになれるけど、放射能とは戦えないし、子どもに明るい未来が見えない。前向きに生きたいけどできなかった。でも今は生活は苦しいけど、子どもらしく当たり前の生活ができる。放射能から解放された喜びでいっぱいです。愛知県の皆さまに感謝しています」。会場ごと、一度交流できる場を持ちましょうとも話し合われました。

「子ども・被災者支援法」にそって懇談(弁護士より説明を受けて)、特徴的な意見を紹介します

一、「支援対象地域とその基準を早く決めて、支援法を生かしてほしい」との期待が共通して出されました。

- ①「「とどまる」か「避難する」か「帰還する」か選択するためには、本人まかせにしない情報と支援策が必要であり、それがバラバラのままでは家族やコミュニティの崩壊につながる」
- ②「放射線による健康影響は科学的に解明されてないので、不安に応える検査と医療体制をとってほしい」「子どもと妊婦の健康を最優先して施策を動かしてほしい」「放射線の学習や十分な情報にもとづく共通理解をはかることが必要」
- ③「国は原子力災害から国民を保護する責任と原発政策を推進してきた社会的責任があり、情報を公開し、原発事故の対策を強めること」「住民や家族の分断を起こさない基準を決めること」
- ④ 親も子どもも一人ひとりが被った心への負荷が大きく、心の安定をとりもどし前向きに考えられる支えなど人とのつながりへの期待がどの会場でも出されました。

一、生活支援策など支援法の施策にそって

住宅の来年度以降の見通し、仕事が見つからない・生活費が不足し始めた、保育所に入れない、子どもの学習の進み具合への支援、住民票

○これらは、愛知県での情報提供、企画の設定、
制度検討につなげます。

一、弁護士会からは損害賠償請求や、ADR による時効の中断などで弁護士へ相談してほしいこと。愛知県弁護士会で 6 月 24 日に避難に伴う慰謝料を請求する集団訴訟を行い、司法をとおして施策充実の力になりたいとの意向が紹介されました。

(17 会場の懇談会と事前調査票のまとめは別途作成します)
(パーソナルサポート支援チーム)

(三浦 みゆき 名古屋市中区 在住)

「おもちゃで元気」に参加して

特定非営利活動法人 はんどるわっと の企画運営による「おもちゃで元気」は開催第 2 回目をむかえ、6 月 2 日（日）お天気に恵まれた青空のもとおこなわれました。

開催場所は名古屋駅から東海道本線へ乗り継いで 3 つ目の稲沢駅で下車し、車で 2 ～ 3 分くらいの趣のある素敵な平屋のお庭付き民家で、あたりは畑に囲まれていて、風がそよそよと吹くとても心地の良い空間でした。

今回参加されたのは全部で 5 家族。皆さん愛知県へ避難されている方々で初めてお会いした方もいらっしゃいましたが、一瞬で打ち解けて共に和やかな雰囲気となりました。

室内はおもちゃ図書館としても活動されている事もあり音が鳴るものから、温かみのある手作り品のおもちゃなどがあり、子どもたちは気になるおもちゃを棚から次々に引っ張りだして遊んでいる様子は、初めてとは思えないくらいに馴染んでいて思わず笑ってしまいました。

お昼はスタッフの方手作りの心のこもった美味しいお食事を沢山ご用意していただき、大人も子どももあれこれと手をのばして賑やかな雰囲気の中、お腹一杯いただきました。

午後は木の釣りゲームを親子で制作して、いい香りのする木に触れながらお魚型の木にクレヨンで好きな色を塗り、大人も久々の作業に集中して取り組む場面もあり楽しめました。

作業の後は縁側で大人も子どもも足をなげだして、甘いスイカをかぶりつき種を飛ばしあったり、子どもたちはお庭で走り回ったり、お花を摘んだり、虫をどこからかつかまえてきたりと、身も心ものんびりと過ごす事が出来ました。

スタッフの方々の暖かいお心遣いによって、まるで実家に帰ったようなのんびりほっこの和やかな時を親子ともども過ごさせていただくことが出来、大変ありがたく、また次回もぜひ参加させていただきたいと思う一日でした。

（ペンネーム ぴよちゃん）

名古屋のご当地紹介

名古屋には、珍しい地名や読めない地名がいっぱいあります。そんなご当地をご紹介します。

・ いのこいし 猪子石 - （名古屋市名東区）

町名を耳にしたとおり、猪の形をした石が存在する。しかも「めいし牝石」と「おいし牡石」の 2 つがあり、「牝石」は「大石神社」という小さな神社に祀られている。小石が付着しているところから「小持石」とも呼ばれ、安産の神として信仰されてきた。

その神社から少し北へ行った所に「猪子石神社」という「牡石」が安置されている場所があり、その石は確かに猪に似ている。

・ いっしや 一社 - （名古屋市名東区）

明治 11 年（1878 年）に「いっしき一色村」と「しもやしる下社村」が統合されたとき、その一文字ずつを取って「一社」としたのだという。どこにでもある合成地名であり、何やら立派な社が「一社」あるということではなかった。

出典：名古屋地名の由来を歩く 著者：谷川彰英 出版社：ベストセラーズ

（編者 井川 真一 名古屋市西区 在住）

吉村医院 うぶやの会 交流会

～ら・びーた ミニコンサート & カレーパーティ～

6月7日（金）に岡崎市にある吉村医院の母子保健室にて交流会が開催されました。

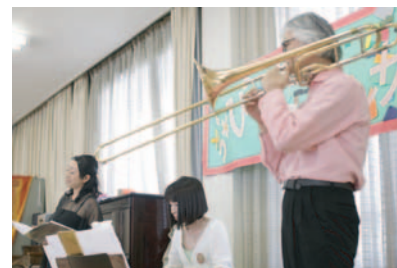
震災から2年経って、ずっと気にはなっているけれど、いったい何ができるのだろうという思いを持った地元のママ達が、実際に避難者の声を聞きたいと企画してくれました。

避難者の参加は10名。地元のママ達は60名ほどで、子どもたちもたくさん参加してとても賑やかで楽しい雰囲気で始まりました。はじめにみんなの緊張をほぐすためのアイスブレイク。とにかくたくさんの人と自己紹介をし、いいと言われるまで見つめ合い、長く見つめ合うと思わず笑っちゃう感じが、緊張をほぐしてくれました。血液型別に分かれて、点呼を取り早く点呼し終わったグループから座ったり、じゃんけんゲームをしたり、血液型でそれぞれ特徴のある行動が面白かったです。

その後みんなでテーブルのセッティングをし、とっても美味しいカレーを戴きました。このカレーを作ってくれたのも、吉村医院で出産されたママさんでした。美味しい食事は、お話も弾みます。ランダムに座りましたが、それぞれのテーブルでいい交流ができていたように感じました。

カレーを戴いた後に、ら・びーたのミニコンサートで、オリジナル曲も含め7曲演奏しました。

コンサート後は、避難者の声を実際に聞いてもらいました。震災時の様子や、東海地震が来る来ると言われているので、これだけは備えておいた方がよいなど、体験談と自分の思いも話されました。東京から避難された方からは食事に関して気をつけていることが話され、仙台から避難された方は、ここ愛知では仙台だから被



災者ではないよね、と周りに言われ、傷ついたというお話がありました。みなさんとても熱心に耳を傾けてくれ、質問コーナーもありとても有意義な時間を過ごしました。

交流会後のアンケートでは、「被災者の方の心のうちを知り、何かの形で役立てるようなことがしたい」とか、「被災していても被災者扱いされないという言葉が聞いていてとても辛かった」など、寄り添ってくれる方がいたり、「小さな子どもと一緒に皆で共に音楽を楽しみ、美味しい食事を楽しみ、語り合う場を持つということは、とても素敵なことで、身体のこと、生命のこと、食べ物のことを大切にするうぶやの会のみなさんはとても素晴らしいと思います」と言った感想が寄せられました。

避難者の方からは、「ら・びーた、うぶやの会の柔らかく温かいエネルギーに癒されました」と感想を頂きました。

私もコンサートの合間に自分の思いを話させて頂きましたが、とても熱心に耳を傾けてくれる姿勢がとても嬉しかったです。

震災から2年3ヶ月が過ぎました。まだ復興とはとても言えない状況ですが、震災を経験していない愛知のママ達が、今もこれからも寄り添って一緒に考えて歩んでくれることに勇気をもらい、また明日から前を向いて進んでいこうと思えた交流会でした。

（ら・びーた 竹内 支保子）



こども健康相談会 報告

- ・ 日程： 6月9日（日）13:00～17:00
- ・ 場所： 三重県伊勢市市民活動センター
- ・ 主催： ふくしまいせしまの会
（日頃は保養活動団体）

恐らく放射能が心配で避難されている親が一番心配なのは、「子どもの健康」でしょう。そんなことにお応えする、「こども健康相談会」が東海地方で初めて開かれました。福島市の「市民放射能測定所」がお手伝いして、実現しました。8世帯21名の参加でした。愛知県でもかねてからこの企画を実現したいと思っていたので、愛知県被災者支援センターから3名が視察に伺いました。「こども健康相談会」は、福島県では毎月、東京都、大阪府、北海道では既に複数回実施されてい

て、京都府、岡山県、愛知県で計画が進んでいるということです。子ども健康相談会といっても、単に子どもの健康の相談だけでなく、生活支援や情報交換なども大切なメニューの一つになっています。また「生活手帳」をお配りして、10年後、20年後の子どもたちを守る、大切な記録を付けることをお勧めしています。

相談会は、医者、弁護士、市役所職員、臨床心理士、託児ボランティアなどが、ワンストップ方式でいろんな角度からの相談に対応ができるような、態勢がつけられていました。

愛知県でも近いうちに実施する予定です。その節は皆様のご参加をお待ちします。

（愛知県被災者支援センター スタッフ）



「生活の記録」医者の相談の前に生活記録を記入



伊勢市役所の職員も聞き取り、良い雰囲気



医者と医学生への訴え。とても真剣



終了後、全員で意見交換会、学習会の様子

- ・ 全国での避難者の様子
- ・ 情報が遮断されている
- ・ 思った以上に深刻である
- ・ 体と心、環境、トータルなサポートが必要など多くの意見が出されました。

日進まちづくりの会

「自分たちが暮らすまち日進を市民の力で盛り上げたい」という市民が集まって、2008 年から活動している団体です。これまでは、市民会館を会場として年に 1 回、講演会などを企画運営してきましたが、昨年度は『福島応援プロジェクト』として、

- I. 福島応援バスツアー（7 月）
- II. 福島の子ども保養受け入れ（8 月）
- III. 福島市常圓寺住職阿部光裕さん講演会（10 月）を企画実施しました。

子ども保養受け入れに取り組むきっかけとなったのは、「チェルノブイリへのかけはし」代表の野呂 美加 さんの講演会に参加し、福島の子どもたちには保養が必要であることを強く感じ、さらに 2011 年の夏休みに保養活動を実施した、「光の帯ネットワーク」に出会えたことが何よりも大きいと思います。

とはいうものの、野呂さんのお話を聴いたのは 2 人だけであり、日進まちづくりの会のメンバーはどう受けとめてくれるか、2012 年の企画として取り組もうということになるのか、そこがまずは心配でした。しかし、その心配は杞憂に終わりました。2012 年の企画として取り組むことが決まると、日進市内はもちろんのこと、周辺の市町

からたくさんのカンパと 120 人を超えるボランティアの協力を得て、5 泊 6 日の保養を無事に実施することができました。これまでの活動ではおそらく出会えなかったであろう地域の皆さんと、福島子ども保養受け入れを通して新たなつながりが出来たことを、とても嬉しく思っています。

今年の夏も、昨年同様に福島の子どもたちの保養受け入れ（母子の受け入れ）を実施するために、現在準備を進めています。私たちの会が行う保養受け入れは、アジア保健研修所（AHI）の宿泊施設をお借りするので、家族毎に個室を用意できることから、特に幼児を持つお母さんに来ていただければと思っています。すぐ隣りが愛知牧場なので、毎朝の散歩はとても気持ちがいいです。皆さんのお友達の中で、保養を考えておられる方がいらっしゃれば是非ご紹介ください。お待ちしております。

＜ 連絡先 ＞

日進まちづくりの会

保養実行委員長 桑島よしえ

愛知県日進市五色園 1-1104

TEL：080-9114-7400

FAX：0561-72-1176

E-mail:machizukuri100@gmail.com



イベント

///「あきらく」のご案内 ///

不定期ですが、岡崎でランチをしながら、女のおしゃべり。刈谷の居酒屋でわいわい騒いだり。この指にとまる方、ご連絡ください。東北の言葉であきらくに！
連絡先 小松（いわき市出身）07050380311

遊び場

/// 神明公園 ///

県営名古屋空港の北西側に位置し、空港を離着陸する飛行機を間近に見ることができる公園です。
子どもの遊具やストレッチができる健康遊具の他、水遊びの可能な人工の小川や池もあり、この季節、子ども達が全身ずぶ濡れで遊んでいます。
また、飛行機に関する博物館「航空館 boon」があり、飛行機やヘリコプターが展示されているほか、クイズやフライトシミュレータなどの体験もできます。2階の展望デッキからは名古屋空港が一望できます
デイキャンプ場もあり、バーベキューを楽しむこともできます。（バーベキュー炉 8基）利用日の3月前から前日までに「航空館 boon」申込みが必要です。

西春日井郡豊山町大字青山字神明 120-1
TEL 0568-29-0036（航空館 boon）
URL : <http://www.town.toyoyama.lg.jp/2sisetu/02koukyou/kouen-sinmei.html>
（紙面の都合上改行されていますが、一行です）

～ デイキャンプ場 ～

<利用時間> 午前 10 時から午後 3 時まで
<休場日> 月曜日（祝日のときは、その翌日）、
年末年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）

/// 子育てつどいの広場 in 瑞穂区 ///

食事やお茶などしながら、子育てについての情報交換会を開催いたします！ お子さんにも思いっきり遊んでいただける広場です。また、子育て支援情報などについても提供させていただきますので、お気軽に遊びに来てください。

日時： 7 月 7 日（日）10:30～14:00

場所：ボラみみより情報ステーション

名古屋市瑞穂区妙音通 2-40 1 階

TEL：080-4228-5356

対象：東日本大震災を機に愛知県に避難されてきたお子さん（0～5 歳程度）のみえるご家族（自主避難されてきたご家族もぜひご参加下さい。）

参加費：無料

交通費：1 家族 2,000 円をご支給いたします。

※ 詳細は、前回お配りしたチラシをご確認ください。

イベント

/// 第 6 回 油ヶ淵萱船学校

造船・乗船会 & 体験教室 ///

日時： 7 月 20 日（土）～ 21 日（日）

20 日 9 時集合 16 時解散 / 21 日 9 時集合 15 時解散

会場：油ヶ淵 & 勤労青少年水上スポーツセンター

（碧南市湖西町 5 丁目 59 番地）

1 日目は萱船職人・ボランティア・参加家族全員で 1 隻の萱船を製作し、2 日目はその作った萱船と過去に作った萱船の計 4 隻の乗船会をおこないます。

また、2 日目は萱笛やミニ萱船、ルアー、ペン立て、絵手紙、水質測定などの体験教室もおこないます。原則 2 日間の参加ですが、1 日・半日も可能ですので、お問合せください。

また、被災者の方は無料で参加いただけますので、申し込みの際、お申し出ください。

申し込み・問合せ先：

油ヶ淵美化ネット・油ヶ淵萱船学校

代表：山中 功博

TEL・FAX：0566-41-8148 携帯：090-3584-4644

E-mail：katuhiro@yf7.so-net.ne.jp

イベント

皆様からの情報をお待ちしています。

◆ 応募方法

◎ メールまたは FAX にて

E-mail：aозora@aichi-shien.net FAX：052-954-6993

◎ 文字数：1 情報につき 200 字以内

◎ 氏名・現住所・電話番号を明記してください。

（実名・匿名・ペンネームなど、掲載の表記希望をお知らせください）

※ 掲載時、こちらで編集したり、内容によっては掲載不可となる場合もあります。その他、相談させていただく場合があることを、ご承知おきください。

※ これらは、さまざまな方々から寄せられた情報を元に掲載しています。
掲載された情報元にご確認のうえ、皆様の判断でご利用ください。